

遺跡情報交換標準の研究

第3版

2013年3月

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
企画調整部 文化財情報研究室

目次

はじめに	1
1 情報標準	2
1.1 情報標準の必要性	2
1.2 標準仕様について	4
1.3 ダブリンコア	5
表 1 【ダブリンコアの要素タイプ】	8
表 2 【ダブリンコアの精密化要素】	9
表 3 【ダブリンコアのプロパティと定義域、値域一覧】	10
表 4 【ダブリンコアの語彙符号化スキーム】	12
表 5 【ダブリンコアの構文符号化スキーム】	12
表 6 【ダブリンコアのクラス】	13
表 7 【ダブリンコアのタイプ要素】	14
1.4 CIDOC CRM	15
表 8 【CIDOC CRM のエンティティリスト】	17
表 9 【CIDOC CRM のプロパティリスト】	19
1.5 地理情報標準	27
2 遺跡情報の構造	29
2.1 遺跡情報の特徴	29
2.2 遺跡の定義	30
2.2.1 遺跡とは	30
2.2.2 1件の遺跡とは	30
2.3 遺跡の階層性	32
2.4 名称要素	35
2.5 位置要素	38
2.6 調査要素	40
2.7 遺構要素	41
2.8 遺物要素	42
2.9 参考資料要素	43
2.10 遺跡情報の地域性	44
2.11 データベース化の問題点	45
3 報告書抄録データベースと遺跡データベース	46
3.1 奈文研が公開するデータベース	46
3.2 報告書抄録データベースの構築	47
図 1 【遺跡データベースの UML クラス図】	48
表 10 【報告書抄録データベースのフィールド構成】	49

3.3	遺跡データベースの構築	50
	表 11 【遺跡データベースのフィールド構成】	52
4	報告書抄録データベース・遺跡データベースにおける入力規則	53
4.1	全般的注意事項	53
	表 12 【入力規則別表 ふりがな】	55
4.2	報告書抄録データベース入力規則	56
4.3	遺跡データベース入力規則	61
	表 13 【時代・遺跡種別コード表】	66
	表 14 【遺跡データベースにおける遺跡種別の区分】	67
	表 15 【時代区分コード】	67
	表 16 【史跡指定区分コード】	67
	表 17 【遺跡種別の表記】	67
	表 18 【遺跡情報記述に使用される可能性のある同訓異字】	68
	表 19 【語句の置換例】	81
4.4	表記規則	92
4.5	詳細な表記の仕方	123
4.6	要素の補足	130
5	遺跡情報の取得・交換・保管・活用	131
5.1	遺跡情報取得	131
5.2	遺跡情報交換	133
	5.2.1 文字コード	133
	5.2.2 用語の整理	133
	5.2.3 遺跡情報交換標準と遺跡位置情報交換標準	133
	5.2.3.1 位置の表現	133
	5.2.3.2 座標系	136
	5.2.4 情報の交換	136
5.3	情報の保管	137
	5.3.1 情報保管基準	137
	5.3.2 考古情報アーカイブ	137
5.4	遺跡情報の活用	138
	5.4.1 種々の環境への提示	138
	5.4.2 利用者別の提示	138
	5.4.3 データ表現方法の工夫	138
	5.4.4 抄録の記載と2次元コード	138
	5.4.5 クリアリングハウスの整備	139
	5.4.6 ワンストップポータル	139
	5.4.7 他のデータベースとの連携	139